



TITLE:

現代アメリカ農業における巨大農場経営 - U. S. Census of Agriculture, 1959の分析(3) -

AUTHOR(S):

中野, 一新

---

CITATION:

中野, 一新. 現代アメリカ農業における巨大農場経営 - U. S. Census of Agriculture, 1959の分析(3) -. 経済論叢 1968, 102(3): 199-220

ISSUE DATE:

1968-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/133296>

RIGHT:

# 經濟論叢

第102卷 第3号

---

中国の新しい増減簿記法の構成分析 .....	高 寺 貞 男	1
部門連関バランスの諸形態と 固定ファンド(3) .....	野 澤 正 徳	23
現代アメリカ農業における巨大農場経営 .....	中 野 一 新	45
石炭業における「構築物」と「施設」 .....	阿 部 功	67

## 書 評

手嶋正毅「日本国家独占資本主義論」 .....	池 上 惇	86
-------------------------	-------	----

---

昭和43年9月

京都大學經濟學會

# 現代アメリカ農業における巨大農場経営

—U. S. Census of Agriculture, 1959 の分析 (3)—

中 野 一 新

## は じ め に

本稿の課題は前二稿<sup>1)</sup>にひきつづき、現代アメリカ農業の進化の法則を解明する実証作業を一步前進させることにある。具体的には新たに入手できた1959年合衆国農業センサスの特別報告書——U. S. Bureau of the Census, *U. S. Census of Agriculture, 1959*, Vol. V, Special Reports, Part 7, Large-Scale Farming in the United States, Wash., 1963. (以下 Spec. Rpt., Part 7 と略す)——を素材に、合衆国の最大規模の農場を分析し、前稿での実証作業を補強することである<sup>2)</sup>。

この新たな資料は、農産物販売額10万ドル以上の農場 (Large-Scale Farming, 以下では巨大農場と略す)<sup>3)</sup> が州別に分類されており、アメリカ農業における最大規模の経営を総合的に分析する最良の資料である。前稿で利用した経済階層

1) 拙稿、現代アメリカ農業の資本主義的性格、「経済論叢」第101巻第2号、昭和43年2月号、41ページ；現代農業における資本主義の一般法則の貫徹と集約的・商業的農業の成長、「経済論叢」第101巻第3号、昭和43年3月号、44ページ。前二稿の結論を要約すると次のとおりである。現代アメリカ農業では、①農業生産の賃労働に対する依存度はますます増大しており、②農業の機械化が急速に進展している。③アメリカ農業は地域や作物の特殊性により不均等に多種多様な形態をとって発展している。とりわけ商業的作物の成長がめざましい。④大経営は賃労働者や生産手段、農産物を集積・集中し、小経営を駆逐している。この集積・集中という点で、集約的・商業的農業のさかんな太平洋岸諸州(とくにカリフォルニア州)は他地域を凌駕している。⑤1910～1959年の半世紀間に、アメリカ農業の最先進地域は東北部から太平洋岸諸州に移った。現代アメリカ農業は、太平洋岸諸州を筆頭に農業の資本主義化が進んでおり、レーニンの検出した資本主義の一般法則は今なお貫徹している。

2) この資料を利用したのは、京都大学経済学部調査資料室の御尽力によるものである。記してお礼を申しのべたい。なお、この資料に拠って合衆国農業を分析している論文につぎのものがある。R. Nikolitch, "Our 100,000 Biggest Farms—Their Relative Position in American Agriculture", *Agricultural Economic Report*, No. 49, Feb. 1964, pp. 1-28.

3) Large-Scale Farming は農産物を10万ドル以上販売する大規模農業経営をさしているが、前稿で農産物を2万ドル以上販売する農場を大規模経営と呼んだので、これと区別して巨大農場経営と呼ぶ。ただし、本稿では以下巨大農場と略す。

(economic class) 別分類<sup>4)</sup>では4万ドル以上販売する農場が一括されていたため大規模経営の分類が不十分であったが、新資料の分析により、大規模経営の性格がより正確に規定できるであろう。

しかし、今度の資料にもいくつかの欠陥がある。分析に必要な限り指摘しておく、第一は、地域別分類は可能だが、農場の型 (type of farm) 別分類は農場数をのぞいて不可能なことである<sup>5)</sup>。第二は、賃労働の雇用人数別分類や農業機械の所有台数別分類を全く欠くため、大経営での集積度が過小に現れる。第三は、前稿での資料同様、一般的な農業機械の統計はあるが、農産物ごとの特殊な農業機械の統計を欠くため機械化の正確な状況が把握できない。

以下では次の順序で考察する。まず、第Ⅰ節で巨大農場の農場数を指標に、その一般的特徴を概観し、第Ⅱ節で巨大農場での賃労働の使用状況、第Ⅲ節で機械や肥料など農業の集約化を示す諸指標を検討する。第Ⅳ節で農業生産の集積・集中と地域による不均等発展、とりわけ、集約的・商業的農業地域における巨大農場の急速な成長過程を分析し、最後に第Ⅴ節で、農業生産全体をつうじて巨大農場が集積・集中を強め、現代アメリカ農業生産の主導的地位にある事実を総括する。

## I 一般的概況——農場数の比較——

合衆国には農産物を年間10万ドル以上販売する巨大農場が、1959年に19,979存在する(第1表)。この大農場の第一の特徴は、その数が近年急速に増大していることである。1929年には、(1959年の農民受取価格に換算して)10万ドル以上販売する農場はわずか2,420であったが<sup>6)</sup>、30年間に約8倍もふえた。しかも、販売額の大きい農場ほどその増加率は著しく、50～100万ドル販売農場は10倍、

4) 「経済論叢」第101巻第2号、50ページ、註94参照。

5) 拙稿、同上、52ページ、註99参照。地域別分類より農場の型別分類の方が農業の集約度を正確に表現できるが、この資料では、農場数以外の指標はいずれも農場の型別に分類できない。

6) 1929年には、農産物10万ドル以上販売農場は、1008しか存在していない。しかし、1959年における農民受取価格10万ドルは、1929年当時のおよそ6万ドルに該当するので、1929年に6万ドル以上販売する農場を巨大農場とすると、2,420農場になる。(Spec. Rpt., Part 7, p. 10 参照)。

100万ドル以上販売する農場は12倍もふえている。1959年には合衆国で100万ドル以上販売する農場は408, さらに50万ドル以上では1,200余も存在する。この30年間に、農場総数が630万から371万へと40%, 259万農場も減少しているなかで<sup>7)</sup>、少数だが大規模農場がこのよ

うに急速に増加している事実は、後に実証するアメリカ農業の進化の性格・方向とかかわって、きわめて重要である。

第二の特徴は、巨大農場が特定地域に偏在していることである。農場総数(371万)に占める巨大農場の割合は全国平均では0.5%だが、西部の太平洋岸諸州および山地諸州では各々3.2%, 1.6%と比重はるかに高い。とりわけ、

表2表 巨大農場の地域別分布

地 域	農場数	実 数		構 成 比	
		総 農 場	巨大農場	総 農 場	巨大農場
合 衆 国		37,080 <sup>8)</sup>	19,979	100.0	100.0
北 部	東 北 部	2,547	1,109	6.8	5.6
	中 西 部	14,598	4,013	39.4	20.1
南 部		16,450	6,306	44.4	31.6
西 部	山 地	1,481	2,306	4.0	11.5
	太平洋岸 <sup>(1)</sup>	1,933	6,217	5.2	30.7

1959年センサス, p. 1226, Spec. Rpt., Part 7, pp. 11-21 より作成。

(1) アラスカ、ハワイ両州はのぞく。したがって構成比の合計は100%に満たない。以下の表も同様である。

7) その後も農場数の減少は著しく、1967年には317.6万農場に減少している。National Advisory Commission on Food and Fiber, *Food and Fiber for the Future*, 1967, p. 155, Table 2-D, 産業計画会議訳, 「将来の食糧と農業—アメリカ農業の基本対策に関する提言—」昭和42年, 164ページ, 2-D 表参照。

第1表 巨大農場数の変化

年度 販売額 <sup>(1)</sup>	1929 <sup>(2)</sup>	1959	'59/'29
100万ドル以上	34	408	12倍
50万ドル～	82	800	10
20万ドル～	678	4,570	7
10万ドル～	1,626	14,201	9
総 数	2,420	19,979	8

R. Nikolitch, *op. cit.*, p. 4, Table 3 より作成。

(1) 1959年農民受取価格。

(2) アラスカとハワイは含まない。

カリフォルニア、アリゾナ両州では各々5.4%, 10.1%と数の上でも大きなウェイトを占めている。他方、家族農場の多い中西部では、巨大農場の比重はわずか0.3%と全国最低であり、集約的な太平洋岸諸州はもちろん、

同じ粗放的な山地諸州よりもその比重ははるかに低い。

巨大農場の地域別分布をみると、第2表のとおりである。合衆国の農場総数のわずか5.2%しか存在しない太平洋岸諸州に、巨大農場総数の31% (6,127農場) が集中しており、山地諸州を加えると40%以上が西部に集中している。他方、農場総数の約40%を占める中西部には巨大農場は20% (4,013農場) しか存在しない。州別にみると、カリフォルニア州に断然多く、巨大農場総数の4分の1以上 (27%—5,339農場) がこの州に集中している。これにテキサス (10%)、フロリダ (6%)、アリゾナ (4%) の三州を加えると、半数近く (47%—9,269農場) が上位四州に集中している。残りの約1万農場が合衆国全体に散在しており、巨大農場の農場数そのものが地域により非常に不均等である。

第三の特徴は、農産物のちがいによっても巨大農場の発展が不均等なことである。農場の型別に巨大農場の構成比をみると (第3表)、肉畜農場がもっとも

第3表 巨大農場の農場の型別分布

農場の型 農場数		実 数		構 成 比	
		農場総数	巨大農場	農場総数	巨大農場
総 数 <sup>(1)</sup>		24,160戸	19,979	100.0%	100.0%
穀飼 物料	商業穀作	3,980	1,179	16.5	5.9
	普通作	2,116	931	8.8	4.7
商業 作物	綿 花	2,418	2,990	10.0	15.0
	タ バ コ	1,901	68	7.9	0.3
	野 菜	219	1,049	0.9	5.3
	果 物	614	1,693	2.5	8.5
	その他の畑作	383	888	1.6	4.4
畜 産	種々のもの	372	1,270	1.5	6.3
	家 禽	1,033	2,000	4.3	10.0
	酪 農	4,283	1,755	17.7	8.8
	肉 畜	6,169	4,171	25.5	20.9
畜 産	牧 畜	672	1,985	2.8	9.9

Spec. Rpt., Part 7, より作成。

(1)この総数は商業的農場の総数である。

多く (21%),  
綿花農場 (15%) がこれに  
続いている。  
3～5位は家  
禽 (10%), 牧  
畜 (10%), 酪  
農 (9%) の三  
農場で占めら  
れ、1位の肉  
畜を加えると  
巨大農場のち  
ょうど半数が  
畜産部門に占  
められている。

しかし、商業的農場総数の百分比と比較すると、趣きを異にする。農場数が比較的少ない野菜（商業的農場総数の0.9%）、果物（2.5%）、その他の畑作（1.6%）、種々のもの（1.5%）の四つの高度に集約的な商業作物の農場は、農場総数のわずかに6.5%を占めるにすぎないが、巨大農場は総数の各々5.3%、8.5%、4.4%、6.3%と相対的に多数を占め、この四者を合計すると巨大農場全体の約4分の1（24.5%）になる。また、粗放的な放牧農業を営む牧畜農場も農場総数の割合（2.8%）に比べ、巨大農場の占める割合はるかに高い（10%）。他方、肉畜と商業的穀作両農場は農場数が多く、商業的農場全体の42%を占めているが、巨大農場では総数の27%を占めるにすぎない。

以上のように、巨大農場の比重は農産物により不均等であり、野菜や果物など集約的な商業作物と牧畜など粗放的だが規模の巨大な農場で比重が高い。

最後の特徴は、各農産物によりその巨大農場の支配的な地域が著しく異なることである。今、農場の型別に巨大農場の地域分布を比較すると第4表のとおりである。

まず、商業的穀作の巨大農場（1,179）はその半数近く（44%）が太平洋岸諸州にあり、南部——中部南西諸州が中心——を加えると巨大農場の4分の3がこの両地域に存在する。近説がアメリカ農業の最先進地域と主張する中西部は、主要作物である飼料や穀作においてさえ、16%を占めるにすぎない。

商業作物の巨大農場は全般に南部と太平洋岸諸州に集中しており、両地域を合計するとどの作物についても50~90%に達する。まず綿花農場は両地域に84%が集中しているが、そのうち66%はテキサス（27%）、カリフォルニア（22%）、ミシシッピー（17%）の三州に集中している。高度に集約的な果物、野菜、その他の畑作、種々のものの各農場は、いずれも太平洋岸諸州と南部の大西洋岸諸州、とくにカリフォルニア、フロリダ両州に集中している。このうち果物と野菜農場は両州に70%前後、カリフォルニア一州のみでも約半数（果物—812農場、野菜—552農場）が集中している。

最後に畜産部門をみると、中西部に巨大農場が集中しているのは肉畜農場

第4表 巨大農場の地域別・農場の型別分布

地域		農場の型 商業耕作	商 業 作 物					畜 産			
			綿 花	果 物	野 菜	その他の 畑作	種々の もの	酪 農	家 禽	肉 畜	牧 畜
総 数		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
北 部	東 北 部	—	—	8.6	7.4	12.8	21.0	5.1	15.0	1.2	—
	中 西 部	16.0	1.6	2.4	6.0	17.9	25.3	1.7	20.0	<b>59.6</b>	11.2
南 部		31.6	<b>61.9</b>	36.2	23.8	20.8	29.0	22.2	<b>38.6</b>	14.0	<b>34.4</b>
西 部	山 地	8.4	14.8	1.4	6.1	10.6	2.6	4.6	2.9	15.3	<b>34.7</b>
	太平洋岸	<b>43.9</b>	21.6	<b>51.2</b>	<b>56.6</b>	<b>33.1</b>	21.9	<b>64.3</b>	23.1	9.8	18.8
主 要 生 産 州	1 位	カリフォルニア 26.0	テキサス 27.5	カリフォルニア 48.0	カリフォルニア 52.6	カリフォルニア 24.0	カリフォルニア 17.3	カリフォルニア 63.3	カリフォルニア 20.3	アイオワ 13.7	テキサス 24.7
	2 位	テキサス 17.8	カリフォルニア 21.6	フロリダ 27.4	フロリダ 14.7	ルイジアナ 8.6	フロリダ 9.2	フロリダ 13.3	ジョージア 6.0	ネブラスカ 13.3	カリフォルニア 13.7
	3 位	ワシントン 11.9	ミシシッピ 16.9	ニュージャージー 2.7	アリゾナ 2.7	ワシントン 5.5	オハイオ 9.0	アリゾナ 2.9	ミネソタ 4.8	イリノイ 10.2	ワイオミング 6.6

Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28.



(60%—2,486農場) だけであり、他はいずれも南部と西部の二地域に集中している。とくに、酪農は中西部のウィスコンシン州を中心とした五大湖周辺が合衆国最大の生産地帯であるが、ここには巨大農場はほとんどみられない<sup>8)</sup>。巨大農場の60%以上(1,111農場)はカリフォルニア一州に集中しており、南部のフロリダ州(224農場)を加えると80%近くが両州に集中している。牧畜農場は山地諸州(688農場)と南部——とくに中部南西諸州(601農場)——に約70%が集中しており、両地域での粗放的な大経営の存在が確認できる。

以上のとおり、農産物ごとに、巨大農場の支配的な地域はことなるが、太平洋岸諸州とりわけカリフォルニア州は、肉畜農場をのぞくすべての部門、とくに集約的・商業作物部門で多数を占めており、第4表に掲げた10の主要な型の農場のうち七部門で全国第1位、二部門で第2位を占めている。カリフォルニア州には、1,800の高度に集約的な四部門の農場——野菜、果物、その他畑作、種々のもの——を筆頭に、酪農(1,111)、綿花(646)農場など一州で5,300余の巨大農場が存在する。他方、近説が強調する中西部は、わずかに肉畜部門で多数を占めるにすぎず、この地域の主要生産部門である商業的穀作においてさえ、巨大農場の数は太平洋岸諸州に圧倒されている。

これまで農場数を指標に、地域や農業生産部門との関連で巨大農場の特徴を概観してきた。この節の分析だけからでも、すでに集約的な太平洋岸諸州農業の先進性と粗放的な中西部農業の後進性が予想される。また、同じ粗放的農業でも、中西部にくらべ山地諸州の方が巨大農場の役割の大きいことが予想できる。

## Ⅱ 賃 労 働

賃労働の使用は、資本主義的生産関係のもっとも本質的な特徴であるが、これを主要な標識として、合衆国における巨大農場の進化の性格を解明する。

### (1) 雇用者数

8) ウィスコンシン州は合衆国第一の酪農生産州で、酪農製品販売総額の13%を生産しているが、酪農巨大農場はわずから農場にすぎない。

1959年、合衆国農業には158万人の賃労働者（うち常雇が70万人）が使用されているが、そのうち賃労働者の19%（30.3万人）、常雇の28%（19.3万人）は農場総数のわずか0.5%、2万弱の巨大農場で雇用されている（第5表）。前稿では、農産物を年間4万ドル以上販売する農場を資本主義的経営と規定したが、この

第5表 巨大農場における雇用者の集積・集中（単位：100人）

地 域	雇 用 者	賃 労 働 者			常 雇			一農場平均雇用者数	
		総農場 (A)	巨大農 場(B)	B/A %	総農場 (C)	巨大農 場(D)	D/C %	賃労働 者	うち常 雇
合 衆 国		15,842	3,032	19.3	7,003	1,926	27.5	15.2 <sup>人</sup>	9.6 <sup>人</sup>
北 部	東 北 部	1,395	198	14.2	885	146	16.5	17.9	13.2
	中 西 部	2,936	247	8.4	1,486	188	12.6	6.2	4.7
南 部		8,595	1,313	15.3	3,030	722	23.8	20.8	11.5
西 部	山 地	951	294	30.9	487	181	37.2	12.7	7.9
	太平洋岸	1,799	844	46.8	970	556	57.3	13.8	9.1

1959年サンサス, pp. 310-311, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28 より作成。

10万ドル以上販売する巨大農場は、一農場平均15.2人もの賃労働者を使用しており<sup>9)</sup>、農業における資本主義的大経営と呼んでよい。

では、この巨大農場による賃労働の使用は、どの地域で一番進んでいるだろうか。第5表にみられるとおり、賃労働の集積・集中がもっとも進んでいるのは西部の二地域である。太平洋岸諸州では農場総数の3.2%を占める巨大農場に賃労働者の47%、常雇の57%が集積、山地諸州では1.6%の農場に各々31%、37%集積している。とくに、カリフォルニア、アリゾナ両州の集積は著しく、前者は賃労働者の53%、常雇の61%、後者は各々67%、69%と農業労働者の大半が少数の巨大農場で使用されている。中西部での集積・集中の程度は他地域にくらべはるかに低いが、ここでも農場総数の0.3%（4,013農場）の巨大農場に8

9) 特別報告書では賃労働の雇用人数別分類を欠くため巨大農場の平均雇用者数しか明らかにできない。しかし、農産物を4万ドル以上販売するクラスI農場（巨大農場も含む）をみても、賃労働者を10人以上雇う11,693の農場が37.1万人の賃労働者を、常雇を10人以上雇う6,688の農場が16.9万人の常雇を集積している。一農場平均前者では32人、後者では25人を使用しており、10万ドル以上販売する巨大農場では、当然、これを大幅に上回る雇用者を使用する経営が多数ふくまれていることが推測できる（1959 Census, p. 236 参照）。

%の賃労働者と13%の常雇が集積している。

最後に、巨大農場の一農場平均の雇用者数をみると、南部がもっとも多く（賃労働者21人、常雇12人）、東北部（18人と13人）、太平洋岸諸州（14人と9人）がこれについでおり、いずれも賃労働を大量に使用する資本主義的大経営である。州別では、大プランテーションの存在するミシシッピー州が断然多く、賃労働者38人、常雇14人を雇用、高度に集約的農業を営むフロリダ州（23人と16人）がその後につづいている<sup>10)</sup>。中西部の巨大農場も一農場平均6人の賃労働者と5人の常雇を雇用しており、他地域よりは少ないが農業生産の大半を賃労働に依存する資本主義的経営である。家族農場の本拠地＝中西部にすら4,000余の資本主義的経営の存在が確認できるのは重要である。

しかし、中西部はさきにみた賃労働者の集積度の点でも、一農場平均の雇用者数の点でも他地域よりはるかに劣っており、太平洋岸諸州はもちろん、同じ粗放的経営の支配的な山地諸州よりも農業の資本主義的發展は遅れている。

## (2) 賃金支出額

つぎに、農場の賃労働への支出額を指標に、賃労働の使用状況を検討する（第6表）。賃金支出額は雇用日数におよそ比例するので、雇用者数を指標とするよりも、賃労働の年間の使用状況を正確に表示できる。

1959年には農場全体の賃金支出額は26.2億ドルだが<sup>11)</sup>、このうち7.9億ドル、30%が巨大農場で支出されており、前項で雇用者数を指標に分析した際より集積・集中は一層顕著である。

地域別に比較すると、太平洋岸諸州の巨大農場は賃金支出額の51%と過半を集積、粗放的な山地諸州も35%を占めており、14%の中西部と対照的である。州別では、アリゾナ州が75%と支出額の4分の3を占め、カリフォルニア、フ

10) 雇用者を10人以上使用するクラスI農場の一農場平均雇用者数は、アリゾナ州では賃労働者が50人、常雇が32人、ミシシッピー州では40人と20人、フロリダ州では35人と32人、カリフォルニア州では33人と27人である（1959 Census, pp. 258-267 参照）。

11) 1964年農業センサスでは農場数が減少したにもかかわらず、賃金支出額は27.96億ドルへ約7%増加している（National Advisory Commission on Food and Fiber, *op. cit.*, p. 224, 産業計画会議、前掲訳、238ページ参照）。

第6表 巨大農場における賃金支出額の集積・集中 (単位: 10万ドル)

地 域	支出額	賃 金 支 出 額			一農場平均支出額	
		総 農 場 (A)	巨大農場 (B)	B/A %	総 農 場 ドル	巨大農場 ドル
合 衆 国		26,217	7,890	30.1	707	39,490
北 部	東 北 部	2,990	631	21.1	1,174	56,914
	中 西 部	5,189	712	13.7	355	17,753
南 部		9,164	2,130	23.2	557	33,780
西 部	山 地	2,171	753	34.7	1,462	32,645
	太平洋岸	6,156	3,160	51.3	3,184	51,580

1959年センサス, p. 351, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28 より作成。

3.9万ドルで、農場総数の平均支出額 (707ドル) の50倍以上を支出している。農業労働者の日給を5.25ドルとすると、年間延7,500人以上、常雇に換算すると (年間就労日数150日として計算) 40人以上雇用することになり<sup>12)</sup>、巨大農場の資本主義的性格が明瞭に確認できる。

地域別では、東北部と太平洋岸諸州が各々5.7万ドル、5.2万ドルで全国平均よりはるかに高い。とくに、カリフォルニア、アリゾナ、フロリダの三州は各々5.4万ドル、5.5万ドル、5.8万ドルと多額を賃労働者へ支出している。中西部の巨大農場は1.8万ドルで他地域よりは少額だが、中西部の総農場平均支出額 (355ドル) の50倍も支出している。

以上、雇用者数および賃金支出額を指標としてみた場合、巨大農場はいずれも——近説が家族農場の典型地域と主張する中西部の巨大農場をふくめて——大量の賃労働者を使用し、農業生産の大半を賃労働に依存する資本主義的经营であることがわかる。アメリカ農業の非資本主義的発異を主張する近説の期待に反して、合衆国には賃労働者を平均15人以上雇用し、年間4万ドル近くを賃労働へ支出する資本主義的大経営が約2万農場も存在し、この大農場は前節でみたように、近年急速に増大している。今や、合衆国農業は、賃労働者のます

ロリダ両州  
も各々58%、  
59%と過半  
を集積して  
いる。  
巨大農場  
の一農場平  
均支出額は、  
全国平均

12) 合衆国平均の農業労働者の日給額は5.25ドル。また、常雇は平均月給額が195ドルなので、1人  
当り年間 (5 カ月分) 675ドルとして計算する (1959 Census, p. 312, p. 316 参照)。

ます多くを少数の巨大農場へ集積・集中し、この大農場を筆頭に資本主義的發展の道を歩んでいる。そして、前項同様巨大農場のもっとも支配的な太平洋岸諸州こそが、現代アメリカ農業の最先進地域の位置を占めることが実証できる。

### Ⅲ 機械と肥料

では、巨大農場は、農業の集約性を示す機械および肥料をどのように使用しているのだろうか。

#### (1) 機械の所有

近年、合衆国の農業の機械化は急速に進展しているが、大経営への集積・集中の程度は他の諸指標よりも相対的に低くあらわれる<sup>13)</sup>。たとえば、トラクター（ガーデン・トラクターを除く）は合衆国全体に469万台あるが、そのうち農場総数の0.5%を占める巨大農場には2.6%（12.1万台）しか集積していない。貨物自動車は283万台中3.4%（9.7万台）、コンバインは104万台中1.3%（1.4万台）、コーン・ピッカーは79万台中0.6%（0.5万台）で、いずれも前節でみた賃労働よりはるかに集積度が低い。

しかし、巨大農場による農業機械の集積は地域により大きく異なる。例をトラクターにとると（第7表）、集約的農業のさかんな太平洋岸諸州では、トラクター総台数の14%（3.6万台）が巨大農場に集積しており、粗放的大経営の多い山地諸州でも5%が集積している。とくに、カリフォルニア、アリゾナ両州では、各々22%、37%とこの傾向がもっとも顕著である。他方、中西部は前稿でみたように農業機械がもっとも普及しているが、巨大農場での集積度は一番低く総台数の1%にも満たない。

次に、各種農業機械について、巨大農場における一農場平均の所有台数を比較する（第8表）。

中西部がほとんどの機械で全国最低であるのに対し、太平洋岸諸州はトラク

13) 後の燃料支出額の項で詳しく述べるように、センサンスの調査項目に含まれる農業機械は限られており、所有台数を指標としては機械化の全貌を把握することができず、巨大農場の集積度は実際よりかなり低くあらわれる。

ターを除く全機械で最高の台数を所有している。農業機械の所有台数という面からみても、中西部の巨大農場は相対的に零細である。しかし、いずれの地域でも巨大農場はトラクターで5～7台、貨物自動車で3.5～6台、コンバインなら1.2～2.5台と農場総数の平均よりはるかに多数の農業機械を所有している。

また、巨大農場は一農場平均の機械所有台数が多いばかりでなく、機械一台当りの使用面積でもはるかに広い。たとえば、トラクター一台当りの収獲面積は、商業的農場の平均が75エーカーなのに対し、巨大農場では124エーカーと1.7倍、コーン・ピッカー一台当りは89エーカーに対し201エーカーで2.3倍（西部の巨大農場では370エーカー）、乾草刈取梱包機 (pick-up balers) 一台当りは158エーカーに対し782エーカーで4.9倍（西部では1,349エーカー）である<sup>14)</sup>。機械の資本効率に巨大農場、とくに西部の

第7表 巨大農場におけるトラクターの集積・集中 (単位: 100台)

トラクター 数 地 域		総 農 場 (A)	巨大農場 (B)	B/A
合 衆 国		46,885	1,213	2.6%
北 部	東 北 部	3,742	53	1.4
	中 西 部	24,665	198	0.8
南 部		13,180	443	3.4
西 部	山 地	2,589	138	5.3
	太平洋岸	2,672	364	13.6

1959年センサス, p. 216, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28.

(1) ガーデン・トラクターはのぞく

第8表 巨大農場における一農場平均農業機械所有台数

機 械 地 域		トラクタ ー(1)	貨物自動 車	自 動 車	コンバイ ン	コーン・ ピッカー	牧草刈取 機
合 衆 国		6.1 <sup>台</sup>	5.0 <sup>台</sup>	2.5 <sup>台</sup>	1.9 <sup>台</sup>	1.4 <sup>台</sup>	1.4 <sup>台</sup>
北 部	東 北 部	4.8	5.7	2.4	1.2	1.5	1.6
	中 西 部	4.9	3.5	2.1	1.4	1.5	1.2
南 部		7.0	4.7	2.5	2.0	1.3	1.6
西 部	山 地	6.0	5.3	2.5	1.7	1.1	1.4
	太平洋岸	5.9	5.7	2.6	2.5	1.6	1.6

Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28.

(1) ガーデン・トラクターは除く。

それできわめて高く、所有台数のみならず、機械の稼働率の点でも大経営の優位性を物語っている。

## (2) 燃料支出額

これまで、トラクター、コンバインなど農業経営一般で、共通に使用されている機械について分析してきたが、現実には地域や農作物の相違によって、これら以外の特殊の専用機械<sup>15)</sup>が多数使用されている。とくに、近年、果物や野菜などの集約的農業で機械化が急速に進展している時、これらの専用機械の使用状況も包括しないと、農業機械化の全貌、とりわけ集約的農業地域の機械の集積度を正確に把握することはできない。ここでは、専用機械もふくめ農業機械全体の使用状況をかなり正確に表示できる指標として、燃料支出額をとりあげる<sup>16)</sup>。

1959年に合衆国の総農場は、燃料費として15.5億ドルを支出している。このうち1.2億ドル、7.5%が巨大農場で支出されており、機械の所有台数を指標と

第9表 巨大農場における燃料支出額の集積・集中 (単位: 10万ドル) するよりも集

地 域	支 出 額			一農場平均支出額	
	総 農 場 (A)	巨 大 農 場 (B)	B/A %	総 農 場 ドル	巨 大 農 場 ドル
合 衆 国	15,544	1,161	7.5	419	5,809
北 東 北 部	1,009	56	5.5	396	5,001
中 西 部	7,535	143	1.9	516	3,564
南 部	4,494	392	8.7	273	6,210
西 山 地	1,202	155	12.9	810	6,707
部 太平洋岸	1,251	378	30.2	647	6,164

積度は著しい

(第9表)。こ

の集積度の相

違は地域別に

比較すると一

層明白である。

集約的な太平

洋岸諸州の巨

1959年センサス, p. 353, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28 より作成。

14) Spec. Rpt., Part 7, p. 10.

15) 縮搾取機、各種野菜・果物の収穫機、タバコ収穫機、包装施設、スプレヤー、スプリンクラー、各種肥料散布機、いも掘取機など作物ごとに専用機械があるが、これらはいずれも農業センサスの調査項目に入っていないので、量的把握は不可能である。

16) ガソリン、燈油、プロパンなどの燃料の他に、潤滑油、グリースなど農業経営に要するその他一切の石油類の支出額を含むが、以下では便宜上、燃料支出額の名称で一括する (1959 Census, p. 345 参照)。これら油類の大半は農業機械用であって、燃料支出額は各種機械の使用度をかなり包括的に表示できる。また、燃料支出額は機械の移動量に大体比例するので、この点でも前項の機械所有台数を指標とした分析より、機械の利用度をより正確に表示できる。

大農場では30% (トラクター台数の場合14%), 山地諸州では13% (トラクター5%) と機械の所有台数にくらべはるかに高い集積度を示しており, 2%弱の中西部とは格段の差がある。州別にみると集積度はさらに顕著で, アリゾナ州では56%, カリフォルニア州では41%と燃料支出額の大半は巨大農場で消費されている。

一農場平均の支出額でも, 巨大農場の平均は5,809ドルで農場総数平均 (419ドル) の10倍以上を支出している。ここでも西部の二地域が6,100~6,700ドルで最高額を支出, 中西部はこの2分の1強 (3,564ドル) にすぎず, 燃料支出額の面からみても, 機械の利用度は他地域よりはるかに低い。

### (3) 機械賃作業 (Machine hire) 支出額

アメリカ農業における機械化の問題を考察する際, 近年, 急速に普及してきた機械賃作業<sup>17)</sup> を無視することはできない。これは本来, 経営者が機械を所有し, 自分自身で, ないしは雇用労働者を使用して行うべき農作業を請負農作業 (custom farmwork) に委ねることであり, 機械賃作業料には機械使用料と賃金部分がふくまれる。それゆえ, 農業経営への機械賃作業の導入は, それだけ農業生産における機械と賃労働の使用が増大することを意味する。しかし, 農場を単位に調査する農業センサスでは, 受託者側が使用する機械や賃労働については全然掌握されないため, 機械賃作業への支出額を無視すると, 農業生産における機械化や賃労働への依存の程度を実際より過小に評価することになる。

1959年, 機械賃作業への支出額は合衆国全体で8.0億ドルだが, 巨大農場はこのうちの15%, 1.2億ドルを支出ししており, 機械の所有台数やガソリン支出額より集積・集中は一層顕著である。また, 第10表にみられるとおり, 集積度の地域による相違も著しい。集約的農業のさかんな太平洋岸諸州の巨大農場は, 機械賃作業支出総額の44%を, ついで粗放的大経営の多い山地諸州が25%を集積している。中西部の巨大農場はここでも2.4%と全国最低であり, 集積度は前者

17) 機械賃作業とはトラクター作業 (tractor hire), 耕転 (plowing), 綿綿 (cotton ginning), 飼料サイロ詰め (silo filling), 各種噴霧作業 (spraying), 果実の摘取り (fruit picking) など機械による農作業を他人に請負わすことであり, 作業の受託者側が機械を所有し, 経営者 (= 委託者) の依頼によって, 自分自身ないしは他人を雇用して委託者の農場の機械作業を行うことである (Spec. Rpt., Part 7, p. 6 参照)。



第10表 巨大農場における機械賃作業支出額の集積・集中  
(単位: 10万ドル)

地 域		機 械 賃 作 業 支 出 額			一農場平均支出額	
		総農場 (A)	巨大農場 (B)	B/A %	総農場 ドル	巨大農場 ドル
合 衆 国		8,046	1,184	14.7	217	5,928
北 部	東 北 部	249	7	2.6	94	594
	中 西 部	2,336	55	2.4	160	1,371
南 部		3,590	433	12.1	218	6,868
西 部	山 地	658	161	24.5	443	6,993
	太平洋岸	1,191	522	43.8	616	8,525

1959年センサス, p. 350, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28 より作成。

の約20分の1, 後者の10分の1にすぎない。機械賃作業支出総額もまた機械所有台数やガソリン支出額同様、否、

それ以上に資本主義的大経営の支配的な西部の二地域で、もっとも集積・集中が進んでいる。

一農場平均の支出額でも、巨大農場は5,928ドルと農場総数平均(217ドル)の25倍以上を支出している。とりわけ、太平洋岸諸州と山地諸州は各々8,525ドル、6,993ドルの高額を支出しており、最低の中西部(1,371ドル)の5～6倍に達している。州別ではアリゾナ州の16,509ドルを筆頭に、ミシシッピ州の11,333ドル、カリフォルニア州の9,430ドルが傑出しており、他地域を完全に凌駕している。

さきに分析したように、資本主義的な巨大農場は多数の機械を所有しているにもかかわらず、機械賃作業にも小経営よりはるかに多額を支出している。巨大農場は最新の農業機械を多数所有し、しかも、機械を購入するより機械賃作業に委ねた方が有利な作業工程には豊富に貨幣を支出して、最も合理的な農業経営を営んでおり、農作業の多くを手労働に依存する小経営との格差はますます拡大している。

本節(1)～(3)項の機械の分析から得られる結論はこうである。第I節で実証した資本主義的巨大大農場は、農業機械の使用の点でも最も進んでおり、賃労働者と機械の使用は、互に排除しあうものではなく、両者の集積・集中は同時に進行している。近説が主張するように、一見、賃労働者が機械によって駆逐され、

資本主義的農業が「解体」していくように見える現象は、科学技術の最新の知識がアメリカ農業にたえず応用され、原始的な手労働が機械労働に不断に駆逐されていく過程にすぎない。もちろん、機械化の進展＝有機的構成の高度化によって賃労働者の絶対数は減少するが、まさにその過程で、大経営による集積・集中が進行し、手労働に多くを依存する小経営は駆逐され、機械と賃労働に依存する大経営の資本主義化が一層促進されるのである。現代アメリカ農業とりわけ巨大農場は、機械化の進展とともに、農業の資本主義的諸関係をますます拡大しているのである。

#### (4) 肥料の使用

機械とともに農業の集約性を表示する肥料の分析にうつろう（第11表）。1959年に合衆国では1,980万トンの肥料を使用しているが、このうちの10%、202万トンが農場総数のわずかに0.5%を占める巨大農場で使用されている。地域別では、太平洋岸諸州の集積度が42%で完全に他を圧しており、粗放の大経営の多い山地諸州が27%でこれにつづいている。中西部の集積度は2%と、ここでもはるか低位にとりのこされている。州別では、アリゾナ、カリフォルニア、フロリダの三州が各々70%、52%、42%と使用量の圧倒的部分を集積している。

巨大農場の一農場平均の肥料使用量は142トンで、農場総数平均（8.3トン）

第11表 巨大農場における肥料の集積・集中（単位：1000トン）

地 域	使用量	肥 料 使 用 量			一農場平均使用量		一エーカー当り平均使用量	
		総 農 場 (A)	巨大農場 (B)	B/A %	総農場 <sup>(1)</sup> トン	巨大農場 トン	総農場 <sup>(1)</sup> ポンド	巨大農場 ポンド
合 衆 国		19,802	2,024	10.2	8.3	142	297	489
北 東 北 部		1,648	102	6.2	9.8	140	489	877
部 中 西 部		6,866	149	2.2	7.5	52	204	249
南 部		9,113	851	9.3	7.9	181	407	565
西 山 地		505	134	26.6	9.5	98	205	320
部 太平洋岸		1,471	616	41.9	16.1	136	316	451

1959年センサス。pp. 328-29, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28 より作成。

(1)ただし、肥料使用農場および肥料使用面積の平均。

の20倍近くを使用している。地域別では南部の巨大農場が181トンでもっとも使用量が多く、東北部(140トン)と太平洋岸諸州(136トン)がこれを追っている。中西部の肥料使用量は52トンで全国平均の3分の1、同じ粗放的な山地諸州(98トン)の約2分の1にすぎず、経営規模は相対的に零細であるが、同地域内の農場総数の平均(7.5トン)よりは7倍も多く使用している。

最後に一エーカー当りの使用量は、どの地域でも農場総数平均よりはるかに多い。広大な土地面積を所有する巨大農場は、その土地利用においても小経営より集約的であり、農地をより有効に活用している。地域別に比較すると東北部が877ポンドで他を圧しており、南部と太平洋岸諸州がこれにつづいている。中西部はここでも249ポンドと同じ粗放的な山地諸州(320ポンド)より少く、集約度は全国最低である。

こうして、集約的な指標として先に検討した機械同様、肥料もまた賃労働を大量に使用する資本主義的大経営に集積・集中しており、とくに、近年、商業作物が急速に成長し農業の集約化を一層深めている太平洋岸諸州の巨大農場で、集積・集中がもっとも顕著であることがわかる。

#### IV 生産の集積

農業生産の分析にうつろう。

1959年にはアメリカ全体で304.9億ドルの農産物が販売されたが、このうちの16%、49.8億ドルが農場総数のわずか0.5%を占める巨大農場で販売されている(第12表)。地域別に農業生産に果す巨大農場の役割を比較すると、集約的な太平洋岸諸州では巨大農場が農産物の販売総額の45%を生産し、最も大きな役割を果たしている。ついで大きいのが山地諸州で28%を集積している。州別にみるとさらに著しく、アリゾナ、カリフォルニア、フロリダの三州は各々69%、55%、54%で、農業生産の過半をこの大農場に依存している。他方、家族経営の支配的な中西部の巨大農場の集積度はわずか7%弱にすぎず、生産の面でも他地域よりその地位は相対的に低い。

第12表 巨大農場における農産物販売額の集積・集中 (単位: 100万ドル)

地 域	農 産 物 販 売 額			一農場平均販売額	
	総農場 (A)	巨大農場 (B)	B/A	総農場	巨大農場
合 衆 国	30,493	4,983	16.3 %	8,218 <small>ドル</small>	249,389 <small>ドル</small>
北 東 北 部	2,292	231	10.1	8,998	208,213
中 西 部	13,002	856	6.6	8,901	213,277
南 部	8,884	1,385	15.6	5,398	219,609
西 山 地	2,356	670	28.4	15,803	290,590
部 太平洋岸	3,803	1,721	45.3	19,662	280,959

1959年センサス, p. 975, Spec. Rpt., Part 7, pp. 29-35 より作成。

ドル前後少ない。しかし、この中西部でも、わずか 0.3% の巨大農場が販売総額の 7% 弱を集積し、平均 21 万余ドルも販売しているのは重要である。

次に、R・ニコリッチ氏の推計により、巨大農場を細分し階層別に検討する (第13表)<sup>18)</sup>。年間100万ドル以上販売する合衆国の最大規模の農場は408あり、平均170万ドルの農産物を販売、これにつづく販売額50～100万ドルの800の農場は、平均75万ドルを販売し

第13表 巨大農場の階層別分布と  
一農場平均販売額

	農場数 <sup>(1)</sup>	販 売 額 <sup>(2)</sup>	
		総 額	一農場平均
100万ドル以上	408	7 <small>億ドル</small>	170 <small>万ドル</small>
50～100万	800	6	75
20～50万	4,570	16	35
10～20万	14,201	21	15
巨大農場総数	19,979	50	25

R. Nikolitch, *op. cit.*, p. 4, Table 2. より。

(1) Spec. Rpt., Part 7, p. 8.

(2) ニコリッチ氏推計、農場数とそれに照応した間隔中央値の相乗積として推定。100万ドル以上の階層はセンサス報告に基づく総額50億ドルから10～100万ドルの額を控除した残余分から算出。

5,800 の農場 (合衆国農場総

数の0.2%弱) が販売総額の

約10%を生産しており、農

業生産の少数の大経営への

18) R. Nikolitch, *op. cit.*, p. 4, Table 2. 地域別には推計されていないので、地域別比較は不可能である。

一農場平均の販売額でも西部の両地域の巨大農場が28～29万ドルで最高額、中西部の販売額は両地域より7万

依存度は著しい<sup>19)</sup>。

農業生産の集積・集中は作物別に販売額を比較すると一層明白である。ここでは代表的な二つの商業作物——野菜と果物——の販売額を例に検討してみよう。

野菜の場合、販売総額(7.4億ドル)の50%以上がカリフォルニア(36%)、フロリダ(11%)、アリゾナ(5%)の三州で生産されており、そのうち、これら三州のわずか1,468の巨大農場で、野菜販売総額の40%(3.0億ドル)が生産されている。カリフォルニア一州をとっても、野菜を販売する1,134の巨大農場が州販売総額の75%(2.0億ドル)、合衆国全体の27%を生産している<sup>20)</sup>。

次に果物の場合も、合衆国販売総額(14.0億ドル)の65%をカリフォルニア(42%)、フロリダ(23%)両州で生産している。しかも、このうち25%(3.5億ドル)を前二州の2,169の巨大農場(うちカリフォルニア州は1,570農場)が生産している<sup>21)</sup>。

みられるとおり、農業生産の地域性の「稀薄化」を主張する近説とは逆に、両作物の主産地はごく少数の地域に限定され、しかも生産の大半がそれらの地域の巨大農場に委ねられている。合衆国での野菜や果物生産は、今や、ほんの一握りの資本主義的な巨大農場によって、事実上、独占されているのである。

## V 総括と結論

以上の実証分析の結果を総括しよう。合衆国の最大規模の経営の諸性格を特徴づける総括的な表を作成し、これを使って今一度本稿の結論を要約する。

まず縦の欄に100の目盛をとり、横欄にはこれまで検討してきた諸指標を配列する。その最左端に経営の粗放度を示す土地面積の欄をとり、第二に農場数の欄をおく。第三に経営の集約度を示す三指標の欄をとる——その第一に機械を代表させてトラクター所有台数(ガーデン・トラクターは除く)、ついで燃料支出額、機械賃作業支出額の順に配列し、最後に肥料使用量をとる。もし、これら

19) 1959年には農産物を4万ドル以上販売する農場が、農産物販売総額の32%を集積していたが、6年後の1965年には42%と10%も増大している。(National Advisory Commission on Food and Fiber, *op. cit.*, pp. 188-189, 産業計画会議, 前掲訳, 198ページ参照)。

20) 1959 Census, p. 978, Spec. Rpt., Part 7, pp. 29-42 参照。

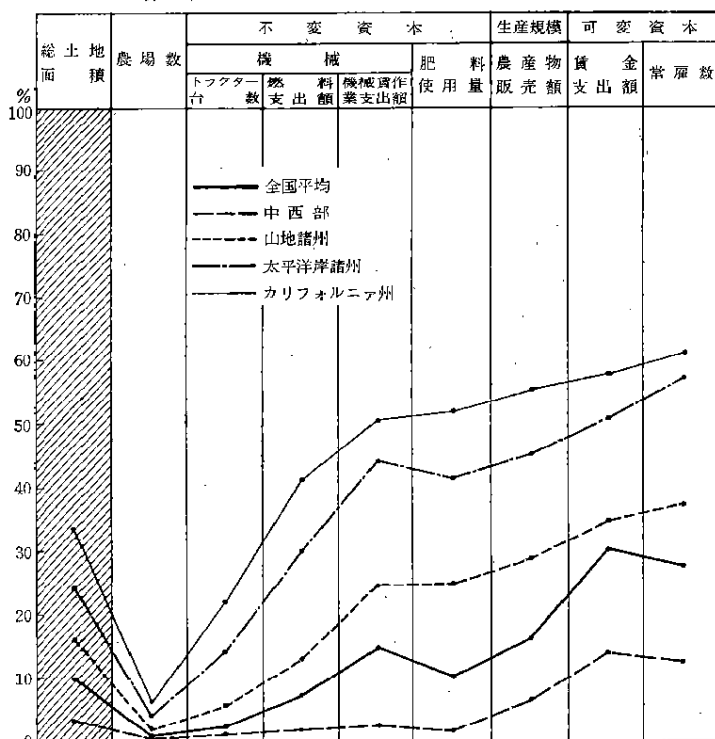
21) 1959 Census, p. 979, Spec. Rpt., Part 7, pp. 29-42 参照。

の集約度を示す諸指標の百分比が土地面積の百分比をこえるとすれば、集約度は各地域の平均より高いという結論が得られる。第四に生産の規模を示す指標として農産物販売額欄をとり、第五の最右欄に、経営の資本主義的性格を示す二つの指標——賃金支出額と常雇数——をとる。

つぎに、論争とのかかわりで、全国平均と4つの地域——中西部、山地諸州、太平洋岸諸州、カリフォルニア州——の巨大農場が占める百分比を各指標ごとに記入し、各地域ごとに百分比を結んで5本の折れ線グラフを描く。このようにして作成されたのが第14表である。そこでこの総括表の検討にうつろう。

この表から得られる第一の結論は、どの地域でも数少ない巨大農場があらゆ

第14表 各地域における巨大農場の集積・集中



る指標で著しい集積・集中を示していることである。とくに、賃労働の2つの指標の集積度は、いずれの地域でも他のどの指標よりも高く、巨大農場が大量の賃労働を集積し、資本主義的農業を営んでいることがわかる。とくに、集約的・商業的農業の支配的な太平洋岸諸州では、農場総数の3.2%を占める巨大農場が賃労働の51~57%と過半を集積しており、太平洋岸諸州の一農場平均の16~18倍を使用している。カリフォルニア州ではさらに集積度がはげしく、賃労働の58~61%を集積しており、賃労働を大量に使用する資本主義的大経営と零細な小経営との格差はきわめて著しい。ついで賃労働の集積が進んでいるのは粗放的な山地諸州であり、35~37%と全国平均(28~30%)よりかなり高い。中西部は山地諸州とならんで粗放的農業の支配的な地域だが、その経営規模=土地面積ははるかに小さく、賃労働の集積度も全国最低である<sup>22)</sup>。しかし、この地域でもわずか0.3%の巨大農場が賃労働の13~14%を集積しており、中西部の農場平均の43~47倍の賃労働を使用し、資本主義的経営を営んでいる。

第二の結論は、5本の折れ線が全く交叉していないことである。すべての指標の集積度の大小は賃労働の百分比の大小に照応しており、賃労働の集積・集中が一番進んでいる地域は、他の諸指標の集積・集中も一番進んでいる。機械と賃労働の関係でも、近説が主張するように両者は互に排除しあうものでなく、賃労働の集積度の高い地域は機械の集積度もまた高いのである。賃労働の集積度が13~14%の中西部では機械の集積度は0.8~2.4%であるのに対し、前者が51~57%の太平洋岸諸州では後者を14~44%集積している(カリフォルニア州では賃労働が58~61%に対し機械は22~51%)。農業の集約的資本主義化の道を歩む太平洋岸諸州、とりわけカリフォルニア州の巨大農場は、賃労働を筆頭に、生産規模、機械、肥料とあらゆる指標の集積がもっとも進んでいる。

第三に、合衆国全体でわずか2万の巨大農場が農産物販売総額の20%近くを集積しており、とくに、太平洋岸諸州では45%、カリフォルニア州では55%と半

22) 巨大農場の一農場平均土地面積は、山地諸州が18,299エーカーであるのに対し、中西部は2,886エーカーと前者の6分1にすぎず、集約的な太平洋岸諸州の3,029エーカーよりも小さい(Spec. Rpt., Part 7, pp. 15-21より計算)。

額以上が巨大農場の生産に委ねられている。中西部の巨大農場も他地域よりはるかに少いが、販売総額の7%弱を生産している。少数だが近年急速に増加している巨大農場は、合衆国の農業生産に果す役割を年々増大し、今や、決定的に重要な位置を占めている。しかもその役割は集約的農業地域ほど顕著である。

第四に、農業の集約性を示す機械と肥料の諸指標の百分比を土地面積のそれとの関連で検討すると、太平洋岸諸州の巨大農場では土地面積の百分比よりも、集約度を示す諸指標（トラクター台数のみ除く）の割合ははるかに高く、同地域内の農場平均よりも集約度が高いことを示している。とくに、機械賃作業や肥料使用の集約度は平均の2倍近くである（土地面積が24%に対し前者は44%、後者は42%）。粗放的大経営の多い山地諸州でも両者の集約度は農場平均より50%以上高い（土地面積が16%なのに対し、前者は25%、後者は27%）。ところが中西部では、巨大農場の集約度を示す諸指標の百分比は、いずれも土地面積の百分比より低く、中西部の農場平均よりも粗放적である。つまり、集約的な太平洋岸諸州における巨大農場の集約化は、そこでの農場平均よりも進んでいるが、粗放的な中西部のそれは、農場平均よりもさらに粗放的であり、両地域の巨大農場を相互に比較すると、平均的農場どうしよりも一層格差のはげしいことがわかる。

以上のように、前稿で実証できたアメリカ農業の資本主義的發展の傾向は、この巨大農場の分析をつうじてより一層明瞭になった。合衆国全体に約2万ある資本主義的的巨大農場は、賃労働の28~30%、機械の3~15%、肥料の10%を集積し、農産物の16%を生産している。この巨大農場は不断に集積・集中を強めて小経営を駆逐し、資本主義的な農業發展の道を行っており、アメリカ農業における支配的な地位をますます強固なものにしている。